

あいさつ

秋谷栄之助

1994年1月、創価学会は、学術的価値の高い貴重な法華経原典を「写真版」と「ローマ字版」の形で公表し、世界の仏教学研究に寄与したいとの構想から、『法華経』原典の写本を刊行していく出版委員会を発足させた。直ちに法華経写本出版のプロジェクトが開始され、同委員会は、その研究、渉外および編集の実務を東洋哲学研究所（IOP）に委嘱した。

以来8年が経過したが、1997年5月には『旅順博物館所蔵梵文法華経断簡』（シリーズ1）、1998年の11月には『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本（No. 4-21）——写真版』（シリーズ2-1）、2000年5月には『カードリク出土梵文法華経写本断簡』（シリーズ3）を、2001年5月には『ネパール国立公文書館所蔵梵文法華経写本（No. 4-21）——ローマ字版1』（シリーズ2-2）を出版することができた。幸い、インド学仏教学、仏教文献学等の分野にたずさわる世界の学者、専門家の方々をはじめ、各界から高い評価をいただき、本シリーズの当初の目的は達成されつつある。責任者として感謝の念で一杯である。

『ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華経写本（Add. 1682およびAdd. 1683）』はこのような背景の中から浮上してきたプロジェクトである。以下その経緯を述べよう。プロジェクト発足の直後から、何回か IOP および同ヨーロッパ・センター（IOPEC）の関係者がケンブリッジ大学図書館にサンスクリット写本管理責任者のクレイグ・ジェイミスン氏を訪ね、同館所蔵の梵文法華経写本を見せていただいた。1998年5月には、IOPの写本プロジェクトの担当者がケンブリッジを訪問、同図書館の写本Add. 1682およびAdd. 1683の写真版を出版する話合いが行われ、2000年の5月には写真撮影のための打合わせが双方の実務者同士で行われた。2000年8月に同図書館写真部によって2写本のカラー写真が撮影さ

れ、翌月日本に送付された。2000年後半から2001年にかけて、写真版の作成が行われ、2002年に完成の運びとなった。

ケンブリッジ大学図書館は、1870年代にダニエル・ライト（1833-1902）が、その後セシル・ベンドール（1856-1906）がネパールで収集した数多くの梵文写本をはじめ重要な資料を保存・公開してこられた。「ベンドール・カタログ」は、その業績を象徴する一つの金字塔であろう。この「カタログ」にも記載されている『ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華經写本（Add. 1682およびAdd. 1683）』は、ネパール＝チベット系写本の中でももっとも古い部類に属し、法華經のテキスト研究には欠かせないといわれている（Add. 1682および1683はケルンの英訳の底本となり、Add. 1683はケルン南條本の校訂に使用された）。このように重要な写本が21世紀の第2年に発刊できることは、まことに意義深いことであり、慶賀にたえない。

発刊に至るまで、D・J・ホール副館長並びにジェイミスン氏はじめ、ケンブリッジ大学図書館の関係者には暖かいご支援をいただいた。特に写真部の方々には、多忙なスケジュールの中にもかかわらず、美しいカラー写真を撮影し、提供して下さった。記して感謝申し上げたい。また、写本研究の権威である日本の徳島大学・戸田宏文教授には監修を引き受けていただいた。写真版の右下には相当するケルン南條本のページと行の数字が表記されているが、これは全面的に戸田教授から寄せられた資料によったものである。心より感謝申し上げる次第である。さらにこの機会をお借りして、プロジェクトにかかわったすべての人々に衷心よりお礼申し上げたい。

なお、当会としては引き続き『東京大学総合図書館所蔵梵文法華經写本（No. 414）——ローマ字版』、『ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵西夏文法華經』などの出版を手がけていく予定である。

2002年1月26日

（あきや えいのすけ／創価学会会長）

（本稿は、2002年3月26日に出版された『ケンブリッジ大学図書館所蔵梵文法華經写本（Add. 1682およびAdd. 1683）写真版』の「あいさつ」を転載したものです。）